



検索

ニュースカテゴリー

## 死の受け止め方 高齢者をあなどるな

あとで読む

【尊厳ある介護（83）】利用者の死を何て知らせればいいの？

公開日：2019/09/16 (ソサエティ)

里村 佳子（社会福祉法人呉ハレルヤ会呉  
ベタニアホーム統括施設長）

「板田トキコさん（仮名88歳）が亡くなった時、そのことを周りの利用者に伝えてもいいのでしょうか」と、介護スタッフの岩谷旬子さん（仮名31歳）から質問がありました。



写真AC

利用者の板田さんは終末期で、いつ逝かれても不思議はないような状態でした。

それで、板田さんが施設で亡くなった時、何と言って他の利用者に説明するか話し合うことにしたのです。

「皆さん高齢なので身近な人の死を知ると、自分も死が近いのではないかと、不安になるのではないのでしょうか」と、最初に看護師が発言しました。

「利用者が悲しんだり混乱したりしてはいけないので、入院したなどと言って本当のことを知らせない方が良いと思います」と岩谷さん。

「利用者に誠実に接することは、事実を伝えることです」と、ケアマネジャー。

いろんな意見が出たので、その場にいたスタッフは考え込んで黙ってしまいました。

そこで、私は「たとえ認知症になっても高齢者は私たちが想像する以上の知恵と経験を蓄えているのでは」と、助言しました。

すると、スタッフの岩谷さんが背いて「私は利用者の知恵と経験を信じます。聞かれたら本当のことを話したいと思います」と、発言したのです。

なので、この件は利用者に事実を伝えることで解決しました。

ところが、別のスタッフから「できれば板田さんの最期に立ち会わせていただきたいので、その時が私の休日だったとしても出勤していいでしょうか」と、小さな声で質問があったのです。

私は以前施設で最期を迎えた丹野団二さん（仮名92歳）のことを思い出し、そのご家族の話をしました。

丹野さんは終末期だったので、スタッフはこまめにお部屋を訪問して看取り介護をしました。ご家族も昼夜付き添われていましたが、用事があって自宅に帰ったその時に丹野さんは逝かれたのです。

すぐご家族に連絡をしました。心の準備はできていたらしく「余命短いと知ってから父と蜜な時間を過ごすことができました。もう、思い残すことはありません。亡くなったのであれば葬儀の手配をしてから施設に行きます」と、気丈にもおっしゃったのです。

いくら最期に立ち会いたいと願っても、そしてご家族やスタッフが付き添っていても、ほんの少しその場を離れた隙に、1人で逝かれる人もいます。

その話を聞いたスタッフは「悔いがないよう今日精一杯板田さんの介護をすればいいですね」と、自分に言い聞かせるように話しました。

そうです。最期も大切ですが、高齢者の日々の生活に丁寧に寄り添うことができれば、最期に立ち会えなかったとしても心残りはないはずです。

その後まもなくして板田さんはお亡くなりになり、ご家族や葬儀社の人たちで施設は騒然としていました。

利用者の何人かは、いつもの施設の風景とは違う気配を感じ取られ、板田さんの部屋を少し離れたところから見ていました。

ですから、板田さんの身辺に変化があったことを気付いているはずです。

だから、スタッフは「板田さんがいないけどどうしたの」と、いつ聞かれるかと身構えていたのです。

でも、次の日になっても、誰も何も言われないうのです。

スタッフは不思議に思っていました、自分の方からは板田さんの死を口にしませんでした。

少し経った頃、利用者の1人が「あの人の顔を見ないけど」と、板田さんのお部屋を指して尋ねたそうです。

「亡くなったのですよ」と答えると、意外にも「あの人は良かったね。私にはいつ迎えが来てくるのかしら」と、言われたそうです。



『尊厳ある介護 「根拠あるケア」が認知症介護を変える』（岩波書店、本体1800円）

心配していた混乱したり不安になったりした様子はありませんでした。

そして、皆さん何事もなかったようにいつもと変わらない毎日を過ごされました。

長年生きてきた人の中には、さまざまな修羅場を乗り越えて得た、はかり知れない底力があるのです。いえ、底力があるからこそ長生きできているのかもしれない。

ゆめゆめ、高齢者をあなどるなかれ。

（注）事例は個人が特定されないよう倫理的配慮をしています。

【読者プレゼント】『尊厳ある介護』はこの連載に加筆してまとめた本です。認知症のご本人、ご家族、介護に携わっている方々に読んでいただきたい本です。

ニュースソクラ編集部より今回も10冊、先着順にてプレゼントさせていただきます。

メール（宛先Info@socra.net）にてタイトル欄に『尊厳ある介護』を希望しますと記し、住所・郵便番号・電話番号と氏名を記して送信してください。ソクラのサイトの問い合わせ欄から書き込んでいただいてもメールが編集部送到られます。

[続報リクエスト](#)
[マイリストに追加](#)

以下の記事がお勧めです

- > [里村 佳子のバックナンバー](#)
- > [「宮崎駿の雑想ノート」原案、戦地に駆り出された漁師の奮闘](#)
- > [ZOZO売却は前澤氏の個人借金が原因？](#)
- > [小糸製作所株買い占めの'物言う株主'ピケンズ氏死去](#)
- > [「人生100歳時代」はキャッチーだが、70年は先](#)

[プロフィール](#)
[最近の投稿](#)


**里村 佳子（社会福祉法人呉ハレルヤ会呉ベタニアホーム統括施設長）**

法政大学大学院イノベーションマネジメント（MBA）卒業、広島国際大学臨床教授、前法政大学大学院客員教授、広島県認知症介護指導者、広島県精神医療審査会委員、呉市介護認定審査会委員。ケアハウス、デイサービス、サービス付高齢者住宅、小規模多機能ホーム、グループホーム、居宅介護事業所などの複数施設の担当理事。2017年10月に東京都杉並区の荻窪で訪問看護ステーション「ユアネーム」を開設。

[この記事編集](#)

ソクラとは

[FAQ](#)

編集長プロフィール

[利用規約](#)

利用案内

[プライバシーポリシー](#)

著作権について

[特定商取引法に基づく表示](#)

メーカーソクラ

[お問い合わせ](#)

お知らせ一覧

[コラムニストプロフィール](#)

Copyright © News Socra, Ltd. All rights reserved